

雲上の美術展を夢見る多摩支部の平本研一さん 市民タイムス東筑・北安版に掲載される

爺ヶ岳大好き！登頂一五〇回

池田町会染滝沢の看護師・平本研一さん(六四)は北アルプス後立山連峰の爺ヶ岳(二六七〇m)に一五〇回以上も登頂している。一五〇回の節目を記念して、爺ヶ岳稜線からの眺望を自ら油彩で描いた絵を、六月に山頂近くの種池山荘に寄贈した。長年見つけてきた絶景を絵によみがえらせ、多くの人に山の魅力を伝えたいと願う。



一五〇回登頂を達成した爺ヶ岳稜線からの眺望を描いた油彩画

池田会染の平本研一さん

平本さんは東京都出身で、学生時代から山が好きで北アにも通った。平成六年に念願かなって北アの眺望が美しい池田町に妻と息子と移住した。爺ヶ岳に初めて登る

自筆油彩画

山荘に寄贈へ

たのは移住後で、二八年九月、六一歳の時に登頂一五〇回を達成した。現在の登頂回数は一五八回となっている。多忙な仕事柄、連休が取りづらいため、休日の早朝に天気図で晴れを確認すると日帰りできる爺ヶ岳や燕岳、針ノ木岳、常念岳などに足を運ぶ。全盛期は週三回、シーズン中に最多で二〇回登り、最深部の薬師岳や雲ノ平などを除いて北アを制覇した。

中에서도交通の便がよい爺ヶ岳に頻繁に登るようになった。連休が取れば二日連続で登り「小屋に泊まった人と夕方に小屋で別れ

て、翌朝再び山で会って驚かれたこともあった」と笑う。

「一五〇回登っても一回たりとも同じ感覚はなく新鮮な気持ち。ガスで視界が悪くても風に乗って岩のにおいが運ばれてくると、山の存在を肌で感じる」と話す。劔岳や立山連峰、岩稜の眺望の素晴らしさ、ヤマネやライチヨウ、花々との出会い、苦労を共にして登った人たちとの友情や自然との一体感が魅力と言う。

次の目標は二〇〇回だ。「常念岳に二〇六回登頂し、安曇野を

愛した(山岳写真家の)田淵行男先生を目標にした。そしていつか雲上の美術展を開けたら」とほほ笑む。

(市民タイムスの記事を転載しました)



爺ヶ岳山頂の平本さん 後方は劔岳

スケッチ会報告

スタッフ 篠光定

第一回スケッチ会を六月二日(金)に小石川後楽園で開催しました。

一般参加者三名を含む計一六名でスケッチ会ならではの自由で活発な作品表現や交流の場となりました。一般参加者達からは、他のイベントへの参加申し込みもありました。



合評会風景
小石川後楽園九八屋裏にて

編集後記

信号機のない横断歩道を渡り始めると、右側から来た軽自動車が増速して、対向車線にはみ出し通り過ぎました。この一コマで、幾つかの事例を想定してゾツとしました。

3月から6月にかけて、関東9支部全てで支部展が開催されました。今号はその特集号としました。 担当 石原